



笑う盾持人物埴輪(わらうたてもちじんぶつはにわ)

この埴輪は、今から 1400 年前に作られたもので、本庄市小島の前の山古墳より出土した。盾で邪悪なものから古墳を守るためおかれたようだ。頭にかぶり物をつけ、大耳、大鼻で、埴輪では極めて珍しく、口には歯を表現した痕跡があり、しゃくれあごの大顔に仕上げられた、全国で唯一のめずらしい風貌である。

埴輪は 6 世紀末ころより製作されなくなるが、この「埼玉最古の芸術家(埴輪製作者)の一人」は、自由奔放な表現で笑顔の作風に仕上げ、県民に貴重な文化遺産をプレゼントしてくれたのである。

本庄市指定文化財(有形文化財・考古資料)

名称「^{おじま}小島前の山古墳出土^{たてもち}盾持人物埴輪 3 体」

指定日 平成 13 年 7 月 27 日 高さ約 115cm。幅約 37cm。

前の山古墳は直径約 30m の円墳で発掘調査後に消滅。埴輪は平成 10 年に出土。本庄市立歴史民俗資料館で常設展示。